

入院診療計画書

急性肺炎、急性気管支炎の治療を受けられる

様へ

2部印刷
1部患者ファイル
1部患者様用

年齢 _____ 生年月日 _____
主治医 _____ 受持看護師 _____ 薬剤師 _____
管理栄養士 _____

日付	入院当日 (1日目)	急性期 (2~5日目)	回復期~退院 (6~7日目)
目標	脱水、倦怠が改善する	経口摂取ができる。起きて遊べる	輸液が不要になる。退院の準備~退院へ
安静度	室内安静(トイレ歩行可)		
食事	年齢に応じた普通食です。子どもさんの病状によっては飲食を制限する場合があります。食べ物、飲物の持ち込みはご遠慮ください		
清拭	1日1回、看護師が体を拭きに伺います(それ以外にも必要な時、お困りの時はお知らせください)		
検査	血液、尿、レントゲン、病原体(口、鼻)の検査をします	下熱しない、症状の回復が思わしくない場合は、血液、尿、レントゲン等の検査をします	退院前回復確認の検査をして結果確認後退院します。入院後の検査に大きな問題なく、治療経過にも大きな問題がなければ検査は行いません
注射	1. 点滴の開始 水分の投与と薬の投与が目的です 2. 抗菌剤の点滴/静脈注射 まずは抗菌剤の投与をせずに経過を観ます。 お薬のアレルギー歴がある場合は医師、看護師にお知らせください。	点滴をしているところが腫れてくる場合がありますので看護師が確認し、必要時点滴部位を固定し直します おしっこが少ない場合、多くなる場合に点滴の量を変更することがあります 下熱しないなど経過、検査をみて抗菌剤を使用することがあります。 症状が増悪する場合ステロイドを併用することがあります 医師が説明しますので必ずご家族で説明を聞いて頂ける人の付きそいをお願いします	輸液、注射約の投与が不要になれば点滴を中止します 経過、検査結果(血液、尿、レントゲン)をみて注射薬を中止します
内服	症状を和らげる薬(咳を和らげる薬、痰を出しやすくする薬、気管支を広げる薬)、経口の抗菌薬などを使用します。 現在内服している薬があれば必ずお知らせください(お薬手帳をお願いします) その薬と重ならないように又はその薬を中断して当院で処方し内服していただきます。		退院時、必要な薬を処方してお渡します
吸入	咳、ゼーゼーを和らげるように1日3回~4回吸入します。 夜間等で咳込みがひどく眠れないなどの時も臨時で吸入して咳を和らげますのでお知らせください。		
解熱剤(熱冷まし)	安静を保つようにするため、高熱時(38.5℃を目安)に解熱剤を使用することがあります。 熱が十分に(期待通りに)下がらない場合でも6時間以上は間隔をあけて使います。 6か月未満の乳児では解熱剤は使いません。氷枕などで体を冷やすようにします		
看護援助	定期的にお部屋に伺って子どもの状態の観察、検温を行います。症状の経過を観ながら安静が保て治療効果が上がるよう援助します。 薬、飲食物にアレルギー歴がある場合は必ずお知らせください。		
説明	担当医が入院時の病状を説明します 看護師が入院中の生活について説明します 薬剤師がお薬について説明します	担当医が適宜、経過(病状、検査結果 等)について説明します 担当看護師が入院中のことでご不明の事について説明します。	退院療養計画書もお示して、退院後の事について説明します。 紹介を受けている場合は紹介元への情報提供書をお渡します。

※上記の内容は、現時点で考えられるものです。今後の経過で変更することもありますのでご了承ください。
※ご質問がありましたら気軽にスタッフに声をかけてください。

私は上記診療行為等について主治医、看護師から十分な説明を受けました。

総合的な機能評価 評価対象外

・日常生活動作 問題なし 要経過観察

・認知機能 問題なし 要経過観察

・意欲 問題なし 要経過観察

※ 特別な栄養管理の必要性 有 無

患者または親権者・親族等サイン _____ (続柄 _____)